

合 格 者 の 声

今年多くの皆さんから喜びの声が寄せられています。

M. F.さん

◆ Utahloy International School
Guangzhou (中国)

一橋大社会学部 (外国学校出身者選抜)



どのようなきっかけから、トフルゼミナールで勉強してみようと思いましたか。

高校1年生のとき、トフルゼミナールの先生方がはるばる中国の学校まで面談に来てくださいり、それがきっかけで知りました。受験を有利にするために海外で何に力を入れるべきかや、どのように勉強すべきか、そして帰国生受験という未知の制度について丁寧に教えてくださいり、トフルゼミナールのもとで受験対策をしたいと考え入学しました。

海外の高校では、勉強や受験の準備に関してどのような点に苦労しましたか。

私は、高校から中国のインターナショナル・スクールに行つたのですが、当時は英語がまったくわからず、授業の内容も3割ほどしか理解できませんでした。そのため、最初はどの授業も他の生徒についていくことや課題を終わらせるのに必死で、成績もあまり良くなく苦労の連続でした。そのため刻々と迫る大学受験もどこか他人事のように思え、なかなか大学調べに身を入れることもできませんでした。進学は私にとって遠い存在であり、何を学ぶかなどもまったく定まっておらず、クラスの皆が大学を決め終わっても志望校を決められずにいました。

そんな状態をどのように乗り越えましたか。

授業でわからないことがあったら、先生に積極的に聞きにいくことでわからない点を少しでも減らそうとしました。IAなど、IBDPの最終成績に大きく関わる提出物を作成する際には、先生方に何度もアポを取り、昼休みや中休みに何度も相談に乗ってもらいました。

また、インターネットを活用することで自分の弱点を徹底的に攻略しました。YouTubeの動画などで自分が理解できない単元を何度も勉強し、授業では軽く流されてしまったものについても、原理もきちんと理解できるようになりました。

とくに苦手だったエコノミーでは、IBDPのエコノミーを取り扱っているYouTuberを何人も参照し、自分用のエコノミープレイリストを作り対策しました。そうした結果、最終的には「7」を取ることができた実力が伸びました。

大学受験の準備は、トフルゼミナールの先生にサポートしていたらしくて、自分が何を学びたいか、そしてどんな大学に行きたいかを明確にすすめることができました。初めは哲学を学ぼうとほんやり思っていたのですが、トフルゼミナールの先生といろいろな学部の授業内容を確認したときに、私が学びたいのは哲学ではなく心理学や社会学だということに気づくことができました。当初はあやふやだった最終地点が、専攻し

たい学部を決めたことではっきりとし、自分の行きたい学校を絞ることができました。

帰国後は、トフルゼミナールの講座でどのような点を強化しましたか?

人間力養成講座では、大学調べや志望理由書作りに力を入れました。「○○大学に行きたい、○○を学びたい」だけで終わらず「なぜ○○を学びたいのか、具体的にはどんな授業・どの教授の授業を受けたいのか、なぜ○○大学でないといけないのか、自分の将来と大学での学びはどう関わってくるのか」などを、志望校のWebページを見て、自分自身を見つめ直しながら深く掘り下げることで、大学を納得させる志望理由書を作り上げるだけでなく、自分の受験へのモチベーションを高めることができました。

小論文の授業では、志望校の過去問を大量に解くことで出題傾向を理解し、受験に万全の状態で挑めるようにしました。小論文は、大学や学部によって出される問題や試験時間などが大きく変わってきます。そのため、出題に合わせて時間配分を工夫したり、何に注意して読むかを理解していることが良い小論文を書く上で重要になります。

トフルゼミナールでは、先生やスタッフの方々が10年分以上の過去問を用意してくださったおかげで、私は本番でも焦ることなく良い回答を書くことができました。

また、国立大学を受験するために個別で英語の試験対策もしていただきました。授業では過去問の答え合わせを通して苦手な単元を洗い出したり、英作文の添削をしてもらいました。先生に指摘された弱点をなくすために、英熟語や和訳の本を買って勉強したり、1日に1題ずつ英作文を解いて対策しました。

将来は何をしてみたいですか。

私の将来の夢は、表現にかかわる仕事に就くことです。私は小さい頃から絵を描くことと本を読むことが好きで、自分自身を表現することや、他者の表現に触れることに長く親しんでおり、将来の仕事でも表現をすることに携われたらと考えてきました。「表現にかかわる仕事」というと芸術や音楽、出版や舞台などたくさんの職種がありますが、私がいま興味を持っているのは漫画です。中国で3年間を過ごした中で、私はたくさんの外国人が日本に興味を持つ理由となっているのが漫画であることを知り、その素晴らしさに気づきました。厳しい道ではありますが、いつかは自分の漫画を世に出せるようにしたいと考えています。

これから大学受験をする帰国生の方へ、メッセージをお願いします。

大学受験のために「いますぐ対策しなきゃ」と焦燥感に駆られている方もいるかもしれません、海外の学校を卒業した後からでも、小論文や面接の受け答え力などは十分伸ばすことができます。まだ学校に在籍中の皆さんに力を入れるべきは、日々の成績や最終試験の成績を少しでも伸ばせるように努力すること、そして学校での活動(ボランティア・募金運動・部活など)にいっぱい参加して実績を残すことです。これらは、帰国後はいっぱい伸ばすことができない割に、書類審査や面接の段階でとても重要視されます。

